

## 平成 27 年度登録水先人養成施設からの改善提案への対応について

平成 27 年度登録水先人養成施設の内部評価報告を含む事業報告書にて提案された改善要望は、既に外部評価項目に取り込み、その対応の方向性の評価は確定した。また、改善提案への具体的対応については、総合事業検討委員会の外部評価委員による審議結果により、下記の通り確定した。

### 記

#### 1. 操船シミュレーターの改善 (外部評価実施結果シート：F1)

##### 1.1. 改善提案内容

東京湾・伊勢三河湾・大阪湾・内海・関門の航行業務を行う二級及び三級の水先修業生に対して海上衝突予防法の理解を深める方策を行うと共に、訓練の効率化をはかるため、マルチキュービクル方式操船シミュレーターを二分割することでも使用可能となる機能を追加する。

##### 1.2. 対応

マルチキュービクル方式操船シミュレーターを二分割することでも使用可能となる機能を追加することとした。また、当該機能を使用する際には、今まで一つだったものを二つに分けて訓練することとなり、その分オペレータ数も必要となるため、水先人講師がオペレータ業務を補助する必要がある。従って、当該機能を有効に活用するためには、水先人講師への補助レベルのオペレータ訓練が必要となるため、新任の水先人講師着任時のオペレータ訓練の実施も併せて対応することとした。

#### 2. 教材支給のタイミング (外部評価実施結果シート：F2)

##### 2.1. 改善提案内容

一級水先人を志望する者に対する教材支給タイミングについて、早期の国家試験(筆記)の

対策として、以下の教材の事前配布を行う。

- 1) 海上衝突予防法の解説（海文堂出版）
- 2) 港則法の解説（海文堂出版）
- 3) 海上交通安全法の解説（海文堂出版）
- 4) 最新水先法及び関係法令（成山堂出版）

## 2.2. 対応

平成 29 年 4 月入学一級水先人養成支援対象者 11 期生から海技振興センターが合格通知を発送するタイミングに合わせて上記教材を支給することとした。

## 3. 教材の支給方法（外部評価実施結果シート：F3）

### 3.1. 改善提案内容

養成課程で使用する教材のうち、「英和対訳 IMO 標準海事通信用語集」については、使用頻度と経費削減の観点から、修業生各人への支給とせず教室置きとし、改訂等があった場合に必要に応じて整えることとした。平成 22 年に名古屋港で発生した衝突事故が起因となり、平成 24 年に日本水先人会連合会が全水先人に対し IMO 標準海事通信用語に関する技能向上を要請した事例があった。また、IMO Resolution A960 では、水先人の IMO 標準海事通信用語への精通が規定されており、当該事象から判断すると、当該教科書は備え置きではなく、修業生各人への支給に変更すべきである。

### 3.2. 対応

対応可能な修業生から支給方法を変更することとした。

## 4. 目標達成度記録管理システム-電子文書閲覧フォルダの新設（外部評価実施結果シート：F4）

### 4.1. 改善提案内容

電子化された教材及びマニュアル等の修業生への最新版の配布及び共有方法について、Web 上からいつでもどこでもアクセスできる目標達成度記録管理システムに機能を追加することにより、修業生が最新の教材及びマニュアル等を閲覧及びダウンロードが可能な環境を整える。

### 4.2. 対応

情報漏洩防止等セキュリティー対策を講じながら、対応することとした。

## 5. 目標達成度記録管理システム機能改善（外部評価実施結果シート：F5）

### 5.1. 改善提案内容

約一年強のシステム運用の実績を踏まえ、以下の2点について改善提案があった。

#### 1) 多年度にわたって在籍する同一等級の者の識別データ入力

養成期間が多年度にわたる修業生の操船シミュレーター訓練及び授業内容等の入力記録について、入学年度が異なる者を明確に仕分けできるように修業生に係るデータの入力に関し、等級別などの選択機能に改良を加える。当該改善提案は、昨年度の外部評価実施時に登録水先人養成施設により提案がなされた後、同登録水先人養成施設の判断により取り下げられた項目だが、一年間システムを運用した結果、再度、改善提案として提示されたもの。

#### 2) 出力機能の改善

出力帳票の一部を現状の運用に即したものに改善する。

### 5.2. 対応

登録水先人養成施設からの提案通り対応することとした。

以上